桜美林大学大学院国際学研究科言語教育専攻

応用言語学方法論

宮崎里司（早稲田大学大学院日本語教育研究科）
URL: http://www.f.waseda.jp/miyazaki/

2006 年度前期　金曜日 6 限（18:20-19:50）
単位　2
開講学期　2006 年春
授業コード 35544

1　目的と概要

この講義は，実証研究にもとづいて収集されたデータを分析し，検証結果を論文としてまとめる大学院生に必要な方法論に関する基礎知識を学ぶクラスとして位置付ける。具体的には、内省的データ収集法として、フォローアップ・インタビューやインターアクション・インタビュー、アイカメラ、脳波などを紹介し，規範の逸脱によって起きたインターアクション問題を調整する過程で、発話者の意識も分析対象とする問題分析などについて考える。講義は、主に第二言語習得関連の先行研究の中で、さまざまな方法論を採用している文献を紹介し、自らの研究に最も適切な方法論を考察する。また，自らの修士論文でどのような方法論を採用するのかをデザインし、クラスでの発表も課す。

２　授業計画

授業は、担当講師による、研究方法論に関する講義、指定教科書で紹介されている方法論を紹介する作業、自らの研究に関する先行研究のレビューをする作業、そして、修士論文で応用するデータ収集方法を発表することにより、どのように問題を検証するかを確定する作業から成り立っている。各週ごとに、担当を決めて、クラスで発表する形式を取るので、積極的かつ自発的な参加が望まれる。

３　オフィスアワー

担当教員とのオフィスアワーは、とくに設定しないが、メールによる問い合わせや質問への回答で対応する

４　指定教科書

J.V.ネウストプニー・宮崎里司（共編著） 2002 『言語研究の方法：言語学、日本語学、日本語教育学に携わる人のために』 東京：くろしお出版

なお、参考書として、以下の書籍の購読も勧める
宮崎里司（編著）・川上郁雄・細川英雄（著） 2006 『新時代の日本語教育をめざして：早稲田から世界へ発信』　東京：明治書院

５　評価

評価は次の５項目で行う。

１　担当論文（文献紹介）の発表（20%）
　『言語研究の方法』の担当論文について，概要をクラスで発表する。
　評価は，発表と，当日配布するハンドアウトに基づき行われる。
２　論文レビュー（20%）
　日本語応用言語学関係の実証研究論文を 4 編（和文、英文どちらでも可）読み，その研究の方法論と分析結果をまとめ解説する。
３　リサーチ・デザインのための参考資料の作成（20%）
　修論に関連する研究分野の実証研究論文を 5 編読み，そこで採用されている方法論を表にまとめる。
４　修論のリサーチデザイン（方法論）の発表（25%）
　修士論文の具体的なデザインを構築し，その中で採用する方法論について，どのようなデータ収集，分析を行うかについて，クラスで具体的に発表し，レポートを提出する。クラス発表（ハンドアウトも含む）10%，レポート 15%
５　出席 （15%）

６　スケジュール

第 1 週 （４月１４日）
オリエンテーション・コース全体の説明
なぜ方法論なのか
表層・深層のインターアクション行動（意識ではない）を調査する
発表担当箇所の決定

第 2 週 （４月２１日）
話しことばの研究
文献紹介発表

フェアブラザー論文
渋谷論文
黎子ネウストプニー論文

第 3 週　（４月２８日）
書きことばの研究
文献紹介発表
庵論文
長友論文

第 4 週　（５月１２日）
参与観察（民族学的方法論）・ネットワーク研究
文献紹介発表
吉光論文
宮崎論文

第 5 週　（５月１９日）
内省的方法論 1　フォローアップ・インタビュー
文献紹介発表
尾崎論文
金子栄子論文
加藤論文

第 6 週　（５月２６日）
内省的方法論 2　脳波研究・アイカメラ
文献紹介発表
鈴木論文
萩原論文
城生論文

第 7 週　（６月２日）
内省的方法論 3　発話思考法，学習ダイアリー
文献紹介発表
森論文

第 8 週　（６月９日）

内省的方法論 4　再生刺激法，回想法

第 9 週 （6月１６日）
面接調査　インタビューとアンケート
文献紹介発表
杉戸論文
渋谷論文
ネウストプニー論文

第 10 週 （6月２３日）
インターアクションインタビュー
文献紹介発表
浅岡論文
金子信子論文

第 11 週 （6月３０日）
学習ストラテジー研究と研究方法（例：外国人力士の日本語習得研究）

第 12 週 （7月7日）
修士論文の研究デザインとデータ収集計画の発表

第 13 週 （7月１４日）
修士論文の研究デザインとデータ収集計画の発表

第 14 週 （7月２１日）

７　参考文献

Bell, J. 1993 Doing Your Research Project: A guide for first-time researchers in education and social science, Buckingham: Open University Press
Gass, S. and L. Selinker. 1994 Second Language Acquisition: An introductory course. Lawrence Erlbaum Associcate.
Johnstone, B 2000 Qualitative Methods in Sociolinguistics. Oxford University Press.
宮崎里司，J.V.ネウストプニー（共編著）1999『日本語教育と日本語学習：学習ストラテジー論にむけて』，東京：くろしお出版（指定教科書）
宮崎里司（編著）・川上郁雄・細川英雄（著） 2006 『新時代の日本語教育をめざして：早稲田から世界へ発信』　東京：明治書院

宮崎里司 2006 『外国人力士はなぜ日本語がうまいのか』（新装版）東京：明治書院
村岡英裕　1999 『日本語教師の方法論』，東京：凡人社
ネウストプニー, J.V.1994「日本研究の方法論」,『待兼山論叢』28，日本学篇，1 －24 頁，大阪大学文学部.
ネウストプニー. J.V.，宮崎里司（共編著）2002（共編著）『言語研究の方法：言語学，日本語学，日本語教育学に携わる人のために』東京：くろしお出版（指定教科書）
Nunan, D. 1992 Research Methods in Language Learning. Cambridge University Press.
Patton, M. Q. 1990 Qualitative Evaluation and Research Methods. 2nd Ed. London, Sage Publications.
ハーバート・W・セリンガー／イラーナ・ショハミー　2001『外国語教育リサーチマニュアル Second Language Research Methods』，東京：大修館書店
Silverman, D. 1993 Interpreting Qualitative Data. London, Sage Publications.
Silverman, D. 2000 Doing Qualitative Research: A practical handbook, London: Sage Publications